

横浜市インフルエンザ流行情報 4号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

インフルエンザ流行注意報が発令されました。

【概況】

2018 年第 51 週(12 月 17 日～23 日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は、横浜市全体で **11.47** と、前週の 5.53^{※2} から増加し、流行注意報発令基準(10.00)を上回りました。

年齢別では、10 歳未満の報告が全体の 49.3%、15 歳未満の報告が全体の 75.5%を占めています。

学級閉鎖等の発生は、今シーズンは第 51 週までに累計 68 件報告されています(保育所・幼稚園 1 件、小学校 65 件、中学校 2 件)。

高齢者施設等での集団発生も報告されています。各施設での持ち込み防止や感染拡大防止対策を徹底しましょう。

今シーズンの第 51 週までの迅速診断キットの結果は、累計で A 型 99.2%、B 型 0.8%と、A 型が多く検出されています。全国のウイルス分離・検出状況^{※3}では、AH1pdm 型、次いで AH3 型が多く検出されており、横浜市でも同様の傾向です(12 月 26 日現在、AH1pdm 型 31 件、AH3 型 13 件、B 型 0 件)。

インフルエンザの本格的な流行に入ったため、正しい手洗い^{※4}等の予防、咳が出る時のマスクの着用及び早期受診などの対策^{※5}が重要です。

※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内 153 か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

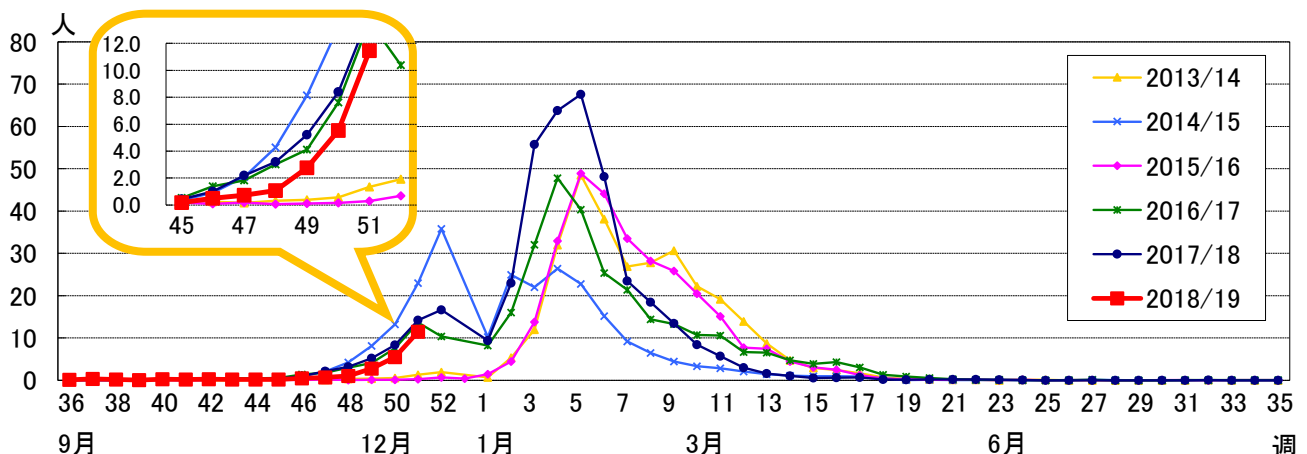
※2 追加報告があったため、以前お知らせした情報から報告数が更新されています。

※3 [インフルエンザウイルス分離・検出報告数\(国立感染症研究所、2018 年 12 月 26 日作成\)](#)

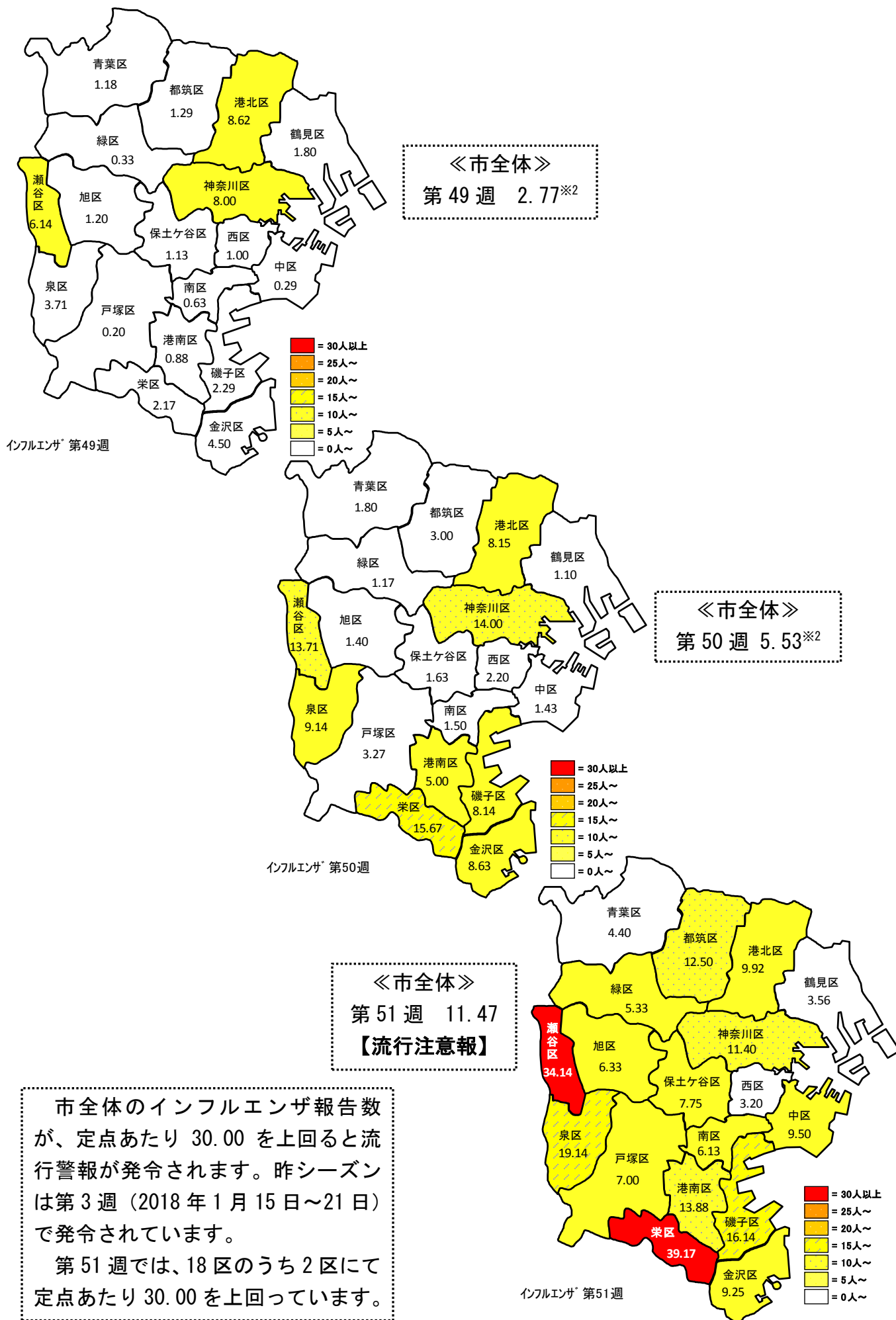
※4 [横浜市保健所ホームページ](#)(「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」、チラシ「咳エチケット」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)

※5 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、流行開始となった第 48 週の 1.08 から、第 51 週は 11.47 とさらに増加し、流行注意報発令基準(10.00)を上回りました。

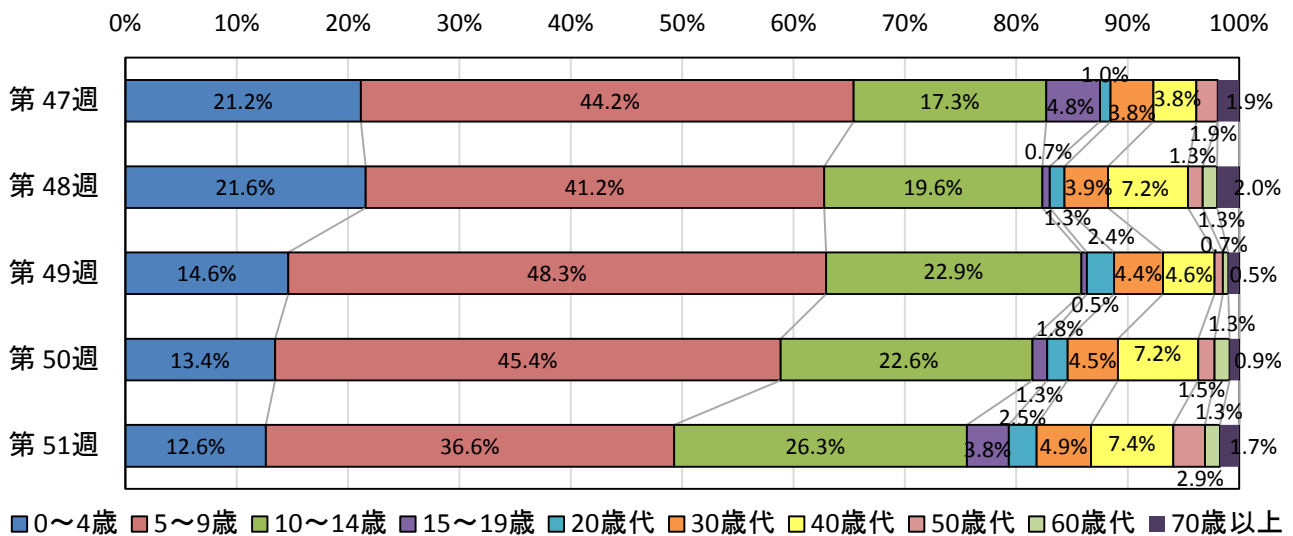


2 地図で表した直近3週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)



3 年齢層別集計:第 51 週の患者年齢構成は、5 歳未満が 12.6%、5 歳から 10 歳未満が 36.6%、10 歳から 15 歳未満が 26.3%となっており、10 歳未満が全体の 49.3%、15 歳未満が全体の 75.5%を占めています。

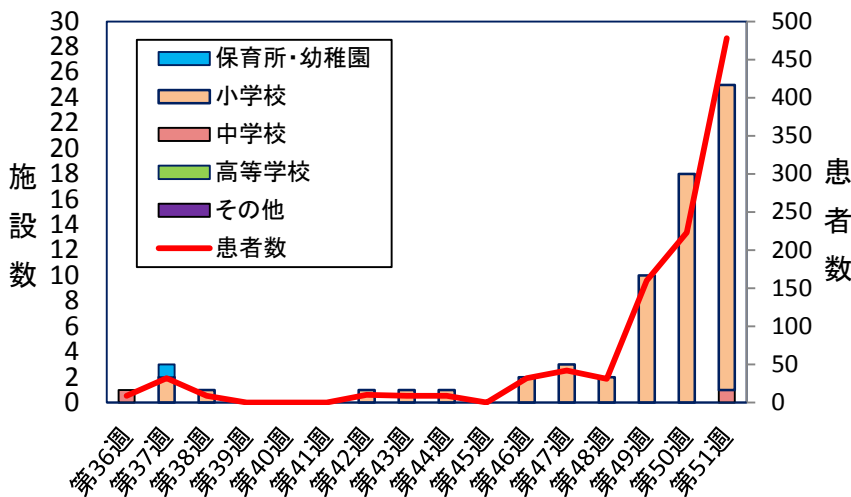
年齢層別患者割合



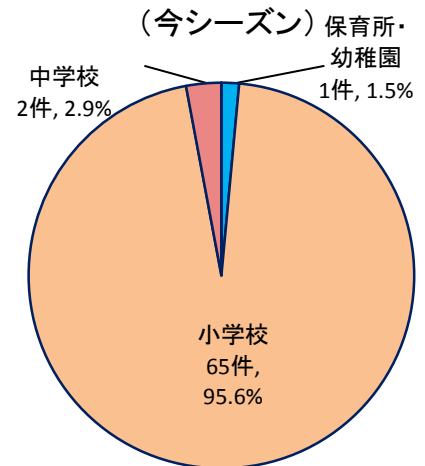
4 市内学級閉鎖等状況:第 51 週は 25 件の報告(小学校 24 件、中学校 1 件)があり、報告された患者数は 478 人でした。第 48 週以降、急激に増加しています。

今シーズンの累計では、第 51 週までに 68 件の報告があり、報告された患者数は延べ 1044 人となっています。報告された施設の割合は、保育所・幼稚園 1.5%、小学校 95.6%、中学校 2.9%となっています。

学級閉鎖等の施設数と患者数の推移



学級閉鎖等の施設の状況



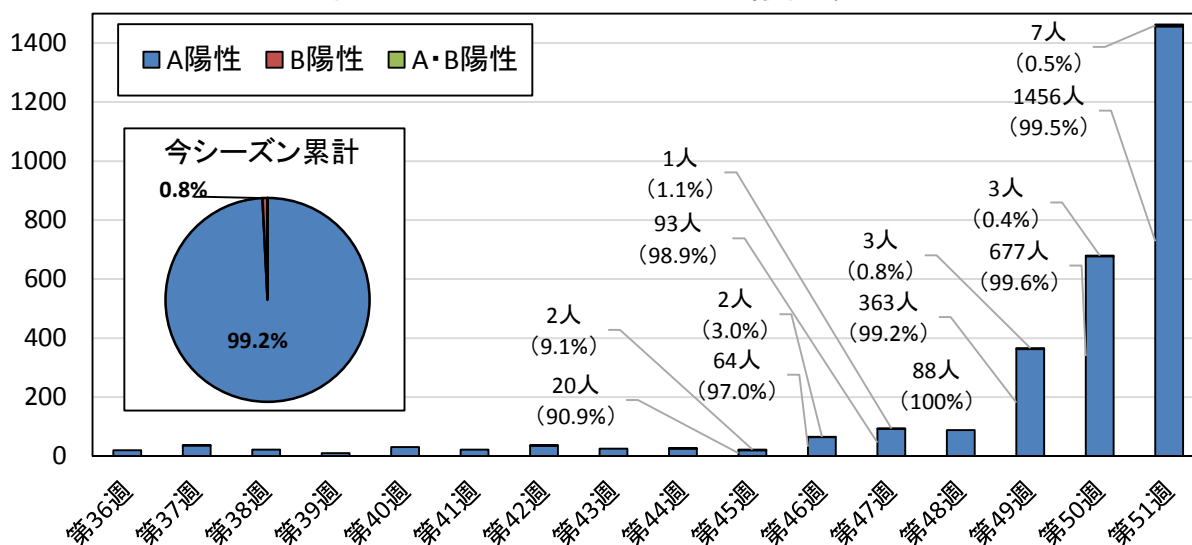
5 入院サーベイランス:市内基幹定点医療機関^{*6}におけるインフルエンザ入院患者は、第 51 週で 1 人の報告があり、今シーズンは累計 9 人(1 歳未満が 2 人、1~4 歳、5~9 歳、10~14 歳が 1 人、70 歳代が 1 人、80 歳代が 3 人)となりました。

入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU 入室、人工呼吸器の使用、頭部 CT 検査、脳波検査等が実施された重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者は、第 51 週で 1 人の報告がありました。

^{*6} 基幹定点:患者を 300 人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 4 つの基幹定点があります。

6 迅速キット結果:第51週の迅速キットの結果は、A型99.5%、B型0.5%で、A型が多く検出されています。今シーズン累計では、A型99.2%、B型0.8%となっています。

横浜市の患者定点医療機関における
迅速診断用キットによる型別の報告数(人)

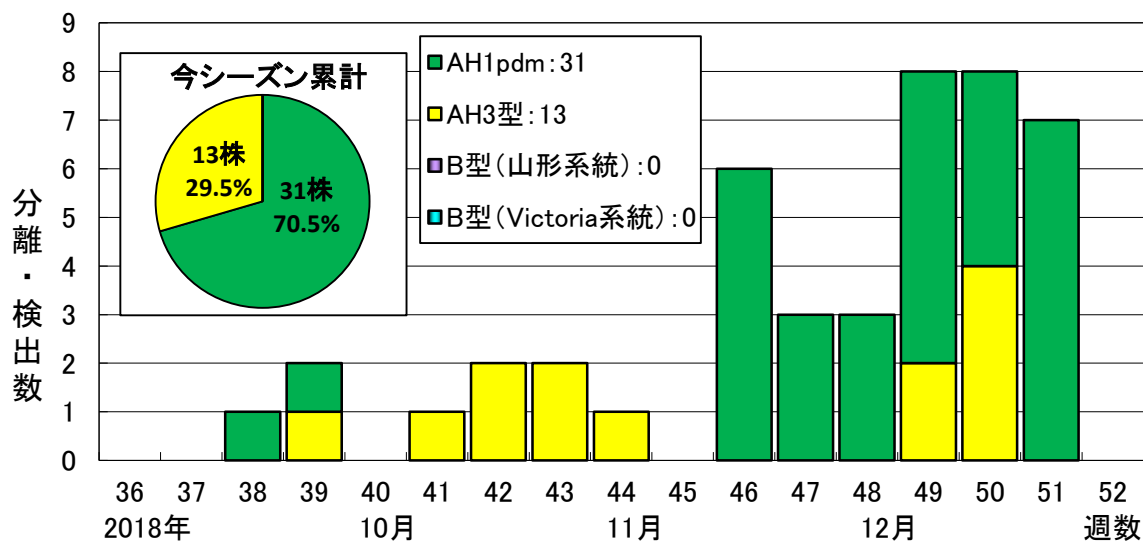


7 市内病原体検出状況:市内では病原体定点^{※7}からAH1pdm(31株)、AH3(13株)、B(0株)が分離・検出されており、AH1pdmが多くを占めています。全国の分離・検出も同様の傾向と考えられます^{※3}。

※7 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に17か所あります。うち、インフルエンザについては12か所にて採取されています。

市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況

(2018年12月26日現在)



※参考リンク 近隣自治体の流行状況 ○神奈川県 ○川崎市 ○東京都
全国の流行状況 ○国立感染症研究所

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9279
横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2442